



学校だより 7月号

令和7年6月30日発行

ふるさとに学び ふるさとで遊び ふるさとを愛する子 ～ふれあいがやき豊かな心～

リーディング DX スクール

校長 杉山 波也

先日、いつものように門の前で子どもたちを迎えていると、1人の子が近づいてきて「はい、四葉のクローバー、あげる。」と言って、私に手渡してくれました。とても嬉しくて、「ありがとう。今日きついことがあるね。」とお礼を伝えました。その後、登校してきた他の子たちに四葉のクローバーを見せたら、「いいなあ。」「おーすごい。」など、みんなぱっと笑顔になって校舎へと向かっていきました。毎朝の短い時間ですが、子どもたちとかかわることができるこの時間が、私は大好きです。

本校は、今年度、文部科学省より「リーディング DX スクール」の指定を受け、新たな学びの在り方について研究を深めてまいります。



「リーディング DX スクール」は、GIGA 端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を十全に活用し、児童生徒の情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DXを行い、全国に好事例を展開するための事業です。（リーディング DX スクール HP より）

「DX」とは「デジタルトランスフォーメーション」の略で、単にデジタル機器を使うことにとどまらず、子どもたち一人ひとりの学びをより深く、豊かに変えていくことをめざすものです。これまで本校でも様々な教育活動の場面で ICT の活用を進めてまいりましたが、新たにリーディング DX スクールの取り組みを通して、より一層子どもたちが自ら学び、自ら考え、仲間と協働しながら課題を解決していく力を育むことをめざしていきたいと考えております。ICT 機器や AI 教材を活用し、子どもたちそれぞれの能力や興味・関心に応じた「個別最適な学び」を進めていくとともに、仲間と共に学び合い、問いに向き合う「協働的な学び」も大切にしていきます。そして、地域や社会の「ひと・もの・こと」とつながる探究的な学びなど、多様な方法で「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していきたいと考えています。

繰り返しになりますが、全てが「デジタルありき」となるわけではありません。教科書・資料から情報を読み取ること、ノートやプリントに文章を書くこと、話し合いを通して考えを深めることなど、今まで大切にしてきたことを引き続き指導してまいります。それらの力が土台となることで、子どもたちはタブレット等を活用し、課題解決へ向け、自分で学習を進めることができるようになると思います。引き続き、子どもたちをしっかりと見取り、一人ひとりの成長に寄り添ってまいります。今後とも、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。